

もんT的 授業づくりのポイント(中学校数学編)

テーマ：「削れるところを徹底的に削ることで、生徒が問題と向き合う時間や生徒同士の交流の時間を最大限確保し、数学の授業を通して生徒の主体性と協働力を育てる。」→授業を通してクラスづくりをする

○削れるところを徹底的に削る（意図的不親切）

- 板書を必要最低限にする
→できるだけ板書はしない方向で考え、必要な場合は最低限の情報量でまとめることを意識する。授業者が板書にかけ時間を減らすと同時に、生徒が板書をノートに書き写す時間も減らす。
→生徒が問題を解いている間に板書を完成させ、話しながら板書をしない。
- 全体に向けた解説を必要最低限にする
→特に注意が必要な問題のみ解説し、その他は答えのみ提示する。個別のつまずきは基本的に生徒同士で解決させる。ただし、次の授業時は前時の復習問題を解くことから始め、授業者が解説し補完する。
- 挙手を求めない
→授業の流れを切らないために、生徒の考えを共有する際は、授業者が発表する生徒を指名する。

※以上を達成するためには、全ての授業においてどの場面で何を板書し、どんな発問をして、どのように解説するかなどを、事前に計画しておくことが必須となります。（そうした意味でワークシートは有効）
また、授業に対する考え方や、生徒に期待することなどを普段から積極的に伝えていくことも大切です。

○生徒の自主性と協働力を育てる

- めあて（ゴール）を設定する
→生徒がその時間で何をできるようになれば良いのか、あらかじめ具体的に示す。
- 生徒主体の活動時間はまとめて設定する
→授業者の解説と生徒主体の活動を交互に行うことは避け、できるだけ長くまとまった時間を用意する。
- できるだけ生徒の活動を制限しない
→個人でじっくり問題と向き合いたいと思う生徒や、他者との交流が苦手な生徒もいるため、可能な限りそうした生徒に交流活動を強要しない。
→問題集の使い方やノートのまとめ方は基本的に生徒のやり方を尊重する。問題集については一律に全ての問題を解かせるのではなく、生徒が自分のレベルに合った問題を選んで解くことを認める。
- プロセスを肯定的に評価する
→自ら学ぼうとする生徒の姿勢や、他者と協力して学ぶクラスの雰囲気を肯定的にフィードバックする。

★授業者が守る約束

- 可能な限り、授業終了のチャイムが鳴る5分前には授業を終わらせることを目指し、チャイムが鳴ってから話し続けることは絶対にしない。→達成のためには生徒の協力が必要。
- 時間が余っても予定していた範囲以上に授業を進めない。
- 授業内で完結させることを目指し、基本的に宿題は出さない。→ノートや問題集の回収、点検も行わない。

★生徒が守る約束

- 授業者が全体に向けて話をしているときは、手を止めて顔を上げ、聞くことに専念する。→「聞く」と「書く」を完全に分ける
- 困ったら助けを求め、助けを求められたらできる範囲で協力する。助けてもらったら感謝の言葉を伝える。日々走り続ける全国の先生方へ、敬意を込めて。 presented by「全国先生お手伝いブログ」